

■【海外セミナーレポート】ISMTE: International Society of Managing and Technical Editors (国際マネージング・テクニカル編集者学会) 2018 North American Conference
 ■TrendMD —新しい読者獲得のために—

SCHOLARONE
MANUSCRIPTS™

ISMTE 2018 North American Conference



2018年8月2～3日に米国メリーランド州ボルチモアで開催されたISMTE (International Society of Managing and Technical Editors = 国際マネージング・テクニカル編集者学会) に、杏林舎から2名のスタッフが参加したことは、すでに9月中旬に弊社の「あんずジャーナル」でお知らせしていますが、まだご覧になっていない方々にも向けて、改めて話題性の高かったトピックについて報告します。

- 国際的報告基準に基づくデータの報告手段 (CONSORTなど)
- 出版倫理ポリシーの詳細と違反行為への対応
出版倫理違反の範囲・判断基準 (剽窃・二重投稿・COI開示不履行など) や不正行為発生時の手続き (リトラクションなど)
 - 出版スケジュール
発行頻度 (毎月/年4回発行など)
 - データアーカイブ
出版データが永久保存されるアーカイブ先へのアクセスが可能かどうか (CLOCKSS, PubMedなど)

発表では多くのジャーナルが上記の情報を十分に開示できていないのが現状だと話していました。日本においても、学協会または編集スタッフから、規定の改訂や表示の見直しを促していく必要があると感じました。

査読に関する新たな試み

新しい査読方法として collaborative peer review (査読協力) とよばれる取り組みが紹介されました。一般的な査読と異なり、査読後に査読者同士が互いに名前を開示したうえで査読結果を読み合い、他の査読者の意見に対しお互いにフィードバックを行うものです。ある出版社で試験的にこの方法をシステム化し実施してみたところ、呼び掛けた査読者のおよそ半数が参加し、参加した査読者からは「査読意見の交換が非常に有意義である」との意見が多かったようです。一方、参加を辞退した査読者からは、その理由として時間と労力の負担が増えることや、名前の公開に抵抗を感じることを挙げていたようです。

査読の透明化への取り組みは、まだ試行錯誤されている段階ですが、今後どのように移り変わっていくか、動向に注目していきたいと思います。



ようとする “predatory journal” への警戒が高まっています。このような背景で、学術ジャーナルがいかにか悪質なジャーナルから差別化でき、国際的な出版基準を満たしたジャーナルであることを示すには、ジャーナルの運営方針をより細かく明記し公開することが重要視されはじめています。今回の会議では透明化 (Transparency) をテーマに、ジャーナル運営側からの取り組みについて以下の発表がありました。

査読・出版ポリシーの透明化

昨年、Committee of Publishing Ethics (COPE) および International Committee of Medical Journal Editor (ICMJE) をはじめとする学術出版に関わる指針が改訂され、透明化に関する以下の指針が新たに追加されました。これらの情報をジャーナルウェブサイト等で明記することが義務付けられます。

- 査読方針 (peer review process)
誰が何人の査読者を選び、誰が採否を決定するか、採否決定の基準はなにか、どの査読モデルを採用しているか (single blind, double blindなど)
- ジャーナルオーナー・運営方法
発行母体、出版社、編集担当者等の運営陣の情報
- ジャーナルの収入源
投稿料、掲載料、広告収入、団体 (学会) からの資金援助など、ジャーナルの運用資金源
- 研究データの登録と開示の義務付け
臨床試験データの国際的登録機関への登録 (Clinical Trialなど)

に関して一切の責任を負わない」と宣言してから発表をしていました。

NEJMの取組みの紹介については、下記の内容が発表されました。

1. 個人情報の扱いに関する方針の記載
HP等で収集した情報がどのような目的・方法で使われる可能性があるか。
2. 投稿査読状況等のレポートに著者名やメールアドレスを使用しない
編集委員会等で配布される資料等においても、著者名やメールアドレス等の個人の特定に繋がる情報は一切削除する。
3. 投稿査読システムでの確認
投稿査読システムに初めてアクセスする際に、必ず個人情報の扱いに関する方針に同意してもらう。

3については既に読者の皆様も ScholarOne Manuscripts™ で経験されていると思います。なお、2については杏林舎でも英文誌や和文誌等の編集事務支援サービスの中で、投稿査読状況や論文の被引用状況に関するデータの収集と分析サービスの一環として、資料を作成する機会が多いので、情報の扱いには十分気を付けて取り組む必要があると強く感じました。

GDPRはそもそもCookieを利用したオンライン情報をベースとした広告とその配信元をターゲットとし、それらに抜け道を与えない様に作られた法律だと言われているので、特に厳しい法律となっているようです。学術業界への影響はまだまだ分かりませんが、これからも進展がありましたら皆様に報告いたします。

その他注目したトピックは、学術出版の透明化についてです。

近年、研究成果の国際発信を目指す研究者が増え、同時に、投稿者から資金を集め

GDPRへの対応

今回、大きな注目を浴びていたのが、EUで2018年5月に施行されたプライバシー保護法 GDPR [正式名称: The EU General Data Protection Regulation = EU一般データ保護規則] についてです。ISMTEに参加したジャーナルの編集に携わるスタッフや編集委員長の間では、この法律に関しては理解よりも不安の方が大きかった様です。その中で、New England Journal of Medicine (NEJM) がジャーナルの対応例として、GDPRに対する独自の理解と対応方針について発表を行いました。

あんずジャーナルにも記載した通り、この法律は

- ① EU圏内に存在する組織ではなく、EUに何らかの形でアクセスする全世界の組織が対象
- ② 営利組織と非営利組織の両方が対象
- ③ 保護対象はEU居住者だけではなく、一時的にEU圏内にいる全個人
(例: 日本からのEU圏内の学術集会等に参加している研究者やEU滞在中の一般観光客の情報も保護対象)
- ④ 違反金は最大2千万ユーロもしくは年間売り上げの4%いずれか高い方で全世界の組織が対象

と厳しい内容となっており、新しく施行された法律で、判例が無いため、様々な解釈が存在するようです。実際にはNEJMの顧問弁護士も、ハッキリとした解釈は持っていないとのことで、あくまでも法律に書かれていることに対して着実に対処することがベストであるとのアドバイスがありました。実際にNEJMの発表者も発表の開始と同時に「私は弁護士ではない。私がこれから発表することは、NEJMの取組みであり、発表の内容

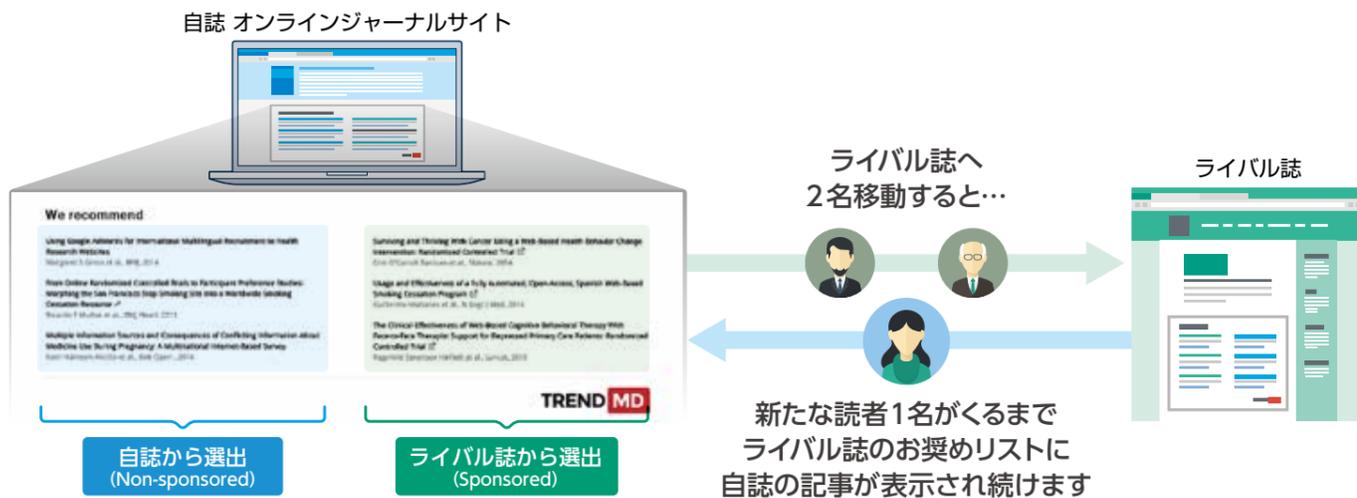
2018年は、20ジャーナルでS1Mの運用が開始されました!

- 頭頸部癌 (日本頭頸部癌学会)
- 耳鼻と臨床 (耳鼻と臨床会)
- Fujita Medical Journal (藤田学園医学部)
- Southeast Asian Studies (東南アジア地域研究研究所)
- International Review for Spatial Planning and Sustainable Development (空間計画と持続可能な開発国際学会)
- Journal of Applied Glycoscience (日本応用糖質科学会)
- 日本看護学教育学会誌 (日本看護学教育学会)
- ISSS/JASDIS/JSDRR (地域安全学会・日本災害情報学会・日本災害復興学会)
- 特殊教育学研究 (日本特殊教育学会)
- Journal of Special Education Research (日本特殊教育学会)
- 理学療法—臨床・研究・教育 (埼玉県理学療法士会)
- 日本レオロジー学会誌 (日本レオロジー学会)
- 応用心理学研究 (日本応用心理学会)
- 日本クリティカルケア看護学会誌 (日本クリティカルケア看護学会)
- 自動車技術会論文集 (自動車技術会)
- Circulation Reports (日本循環器学会)
- 日本小児麻酔学会誌 (日本小児麻酔学会)
- 日本小児救急医学会雑誌 (日本小児救急医学会)
- 産婦人科の進歩 (近畿産科婦人科学会)
- 日本救急看護学会雑誌 (日本救急看護学会)

SCHOLARONE
MANUSCRIPTS
2018

新しい読者獲得のために

TREND MD



その読者が興味をもつ「であろう」お奨めの関連論文リストを表示

TrendMDのウィジェットをジャーナルHPに設置すると、オススメ関連論文リストが自動生成されます。読者はこのリストから興味を惹かれた論文の要旨ページへと移動できます。リストに表示される論文は論文同士の関連性や他のユーザーの動向に加えて、そのユーザー個人の好みを学習し最適化していきますので、利用すればするほど論文を推薦する精度が高くなっていきます。

リストには自誌から選ばれたもの (Non-sponsored) とライバル誌から選ば

れたもの (Sponsored) の両方が表示されます。ライバル誌の記事が表示されることは一見デメリットにも思えますが、TrendMDでは読者が2名ライバル誌へ移動すると新たな読者1名がやってくるまでライバル誌のお奨め関連論文リストに自誌の記事が表示される仕組みになっていますので、読者がライバル誌へ移動するほど読者獲得のチャンスが広がります。

TrendMDのお奨め関連論文リストは無料で設置可能ですが、論文を公開しているプラットフォームがウィジェットの設置に対応している必要があります。

ジャーナルや学会大会のプロモーション手段として

ウィジェット設置の有無に関わらず、TrendMDでは予算に応じた数の読者を自誌のHPに招くこともできます。例えば500人分の予算を設定すると、ライバル誌の読者がTrendMDを通じて500人やってくるまでライバル誌の関連論文リスト

上に自誌へのリンクが表示され続けます。この場合は広告を行うコンテンツや、自誌に招きたいユーザーの絞りこみも可能です。例えば過去2年間に出版された論文のみをリンクに表示させたり、特定の地域や研究機関のユーザーのみを対象として記事を表示させることで、効率よくプロモーションを行うことができます。

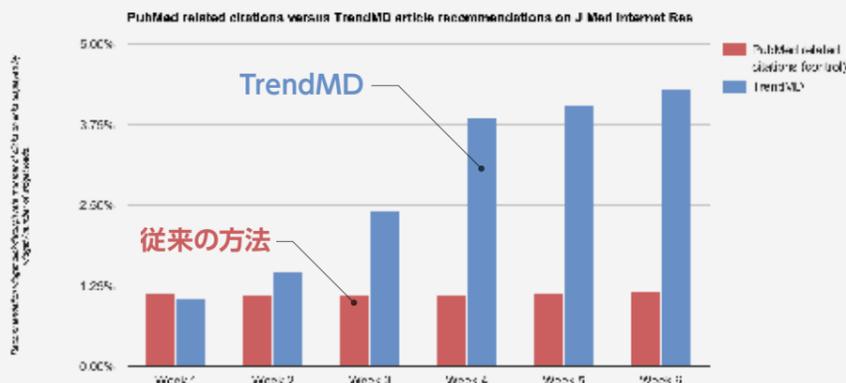
杏林舎はジャーナルなどのプロモーション手段としてTrendMDのサービスを提供できることになりました。

ウィジェットを設置可能なジャーナルはもちろん、設置できないジャーナルにもご案内いたします。ライバル誌やコアジャーナルがTrendMDを導入しているジャーナルでは相乗効果が期待できますので特別にお奨めです。海外への情報発信やジャーナルのプレゼンス向上に力を入れている学会様はぜひお問い合わせください。

【導入事例】 Journal of Medical Internet Research

医学系オープンアクセス誌である Journal of Medical Internet Research は、論文同士の関連性に基づいてリストを作成する従来の方法 (赤色) と、TrendMD (水色) が作成した関連論文リストではどの程度クリック率が変化するのかを調査しました。テストの結果、最初の1週間は殆ど違いがありませんでしたが、時間の経過と共にTrendMDがユーザーの行動や各読者の好みを学習するにつれて、徐々にTrendMDの論文リストのクリック率が上昇し、6週間後には従来の方法の約2.7倍にまで達しました。

TrendMDと従来の方法のクリック率の変化



編集後記

今号はISMTEへの参加で得た情報とTrendMDについてをご紹介しました。ISMTEでトピックとなったGDPRにつきましては、SIMでも昨年5月より開発元のClarivate Analyticsのプライバシーポリシーに同意しないとユーザーはシステムを利用出来ないように対応がなされました。なお学協会様でプライバシーポリシーをご用意されている場合は同意欄にリンクの設置が可能ですので、ご希望の場合は弊社サポートセンターまでご連絡ください。TrendMDは、国内ではまだまだ普及されていませんが、SIMのユーザー様からもご要望を受けまして、この度弊社でもサービスをご提供させていただくこととなりました。こちらご興味がありましたらぜひ弊社へお問い合わせいただけることをお待ちしております。最後となりますが、昨年は20ジャーナルでSIMの運用を開始いただきました。日頃SIMをご愛顧いただいている皆様へあらためて感謝申し上げます。

SIM NEWS

2019年2月22日発行 第18号

発行 株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311 FAX. 03-3949-0230
URL http://www.kyorin.co.jp

編集・制作・デザイン 株式会社 杏林舎
E-mail s1mnl@kyorin.co.jp

Manage Manuscript Files (ファイル管理) のチェックボックス

①HTML / PDF Proof

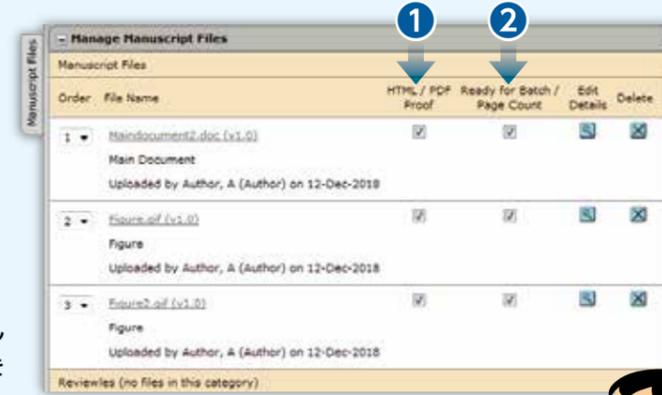
チェックを入れると査読用HTML/PDFに含まれるようになります。

②Ready for Batch/Page Count

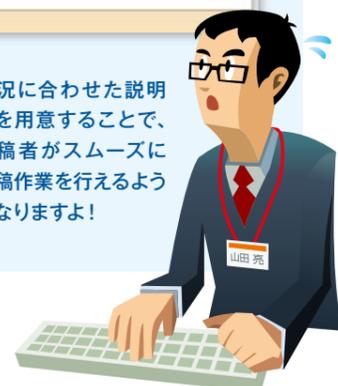
チェックを入れると、入稿用のZIPファイルに含まれるようになります。

例えば図表がどうしても査読用PDFに正しく変換されない場合など、原稿ファイルをPDF化したものと差替えることがあります。

この場合、元々の原稿ファイルはそのまま残しておいて「①のチェックを外し、②のチェックを入れる」とし、PDFに変換してアップロードした原稿では「①のチェックを入れ、②のチェックを外す」としますと査読用PDFには正常に図表が表示され、かつ入稿される原稿は編集しやすいPPTとすることができます。



状況に合わせた説明文を用意することで、投稿者がスムーズに投稿作業を行えるようになりますよ!



こんにちは! 学術ソリューショングループの山田です。今回はファイル管理画面のチェックボックスについてです。査読用PDFがうまく作られない場合など、トラブル発生時にお役立てください。